



## 説教要旨「獄中であって自由」

使徒言行録 16章 25～40節

本当の自由とは何か。今日の聖書の箇所、フィリピの牢獄において起った出来事は、本当に自由な者とはどのような者であるかを私たちに考えさせてくれます。

フィリピで伝道するパウロたちは、1人の女奴隷の霊を追い出したことにより、恨みを買って、捕えられ、鞭打たれ、死刑囚に入れられる一番奥の牢に閉じ込められました。明日には処刑されるかもしれない緊迫した状況下でありながら、パウロとシラスは賛美の歌を歌い、神に祈っていました。すると突然大地震が起こり、牢の戸がすべて開いたのです。囚人全員が逃げてしまったと思った看守は、もはやすべてを諦めて自ら命を絶とうとします。その彼にパウロは、「自害してはいけません。わたしたちは皆ここにいる」と声をかけたのです。囚人たちは一人も逃げ出すことなくそこに留まっていたのです。

絶望的な状況に自ら死を選ぼうとしたこの看守と、牢屋につながれ死の一手前にありながら神へ賛美と感謝を献げ、大地震によって逃げ出せる状況にありながらも、牢屋の中に留まることを選んだパウロとシラス。本当に自由な者とはどちらなのでしょう。

「救われるためにはどうするべきでしょうか」

看守は、パウロとシラスの前にひれ伏し、そう尋ねました。看守がそれまで頼りにしていたものらは、あっけなく崩れ去り、彼は絶望の内に自ら死を選ぼうとしたのです。本当にどうしようもないと思える、そんな絶望の淵においても、決して崩れ去ることのない本当に頼りになるもの。それが彼の求める救いです。パウロとシラスは彼に告げました。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます」(31節)。

イエス様をキリスト(救い主)だと信じ、イエス様のものとされたとき、もはや病気やその他の様々な痛みも、そして死であっても、絶望に支配されることのない、本当の自由を得るのです。

わたしたちのために十字架の痛みと死を引き受け、そして復活して下さったイエス・キリストが、わたしたちを支配し、共にいて下さるからです。

(2022・10・23 説教者：稲垣真実)